

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100545		
法人名	有限会社ライフプランニング		
事業所名	グループホームひだまりの丘(ユニット1)		
所在地	北海道釧路市白樺台2丁目8番20号		
自己評価作成日	平成 28年11月11日	評価結果市町村受理日	平成 29年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0174100545-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成28年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・閑静な住宅街の中に位置し、昼夜問わず静かな雰囲気 of 所です。
・家庭で行うような、自然な雰囲気での入居者の方が過ごしていただけるようにスタッフ全員が心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・閑静な住宅街に立地している木造平屋2ユニットのグループホームで、玄関を挟み左右に分かれ、建物は天窓付きで柔らかな日差しが入り明るく、ゆったりとした共用空間で、職員は利用者が日々、穏やかに、家庭的な生活環境のなかで精神面、身体面を見守り、安心して日常生活ができるように、サポートに目配り、気配り、心配りで介護、介助をし、不安の無い支援をして利用者は快適に過ごしている。管理者が看護師の資格を有し利用者の日常の健康管理を行い、家族も職員も安心して指導を受け、信頼関係に繋がっている。家族や近隣住民の理解も増し、利用者は湖水花火大会などの地域行事を見学したり、畑の種まき、フラダンスなどにボランティアが来訪して交流している。また、中学生の職場体験受け入れ、災害時には近隣住民の受け入れ先に事業所を開放することを提示して地域に貢献し、運営推進会議や避難訓練にも家族、地域の協力体制が得られている。管理者と職員のコミュニケーションも良く、利用者、家族も、丁寧な言葉使いや、対応に安心して、サービスに満足している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝介護唱和を行い、家族と同じ気持ちで接するなど実践につなげている。	「個人の尊重、平等な介護、笑顔の創造、地域との交流」を運営理念に掲げ、穏やかに、不安や戸惑いを感じさせない事を目標に管理者と職員は毎朝のミーティング時に唱和して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院受診や毎日の散歩、近隣スーパーへの買い物、レクリエーションの参加など地域との交流を図っている。	事業所が行う夏祭り、畑作業、レクリエーション、避難訓練、運営推進会議に近隣住民の参加があり、近くの中学生在が職場体験活動で利用者と一緒に体操、散歩、食事作り等に参加したり、地域の人々と交流を図っている。	地域の会館を利用して、地域包括支援センターの職員が講師となり、利用者と家族も参加して、講演会を開催し、近隣の住民の理解と交流を深める事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談窓口として相談にのったり、学生さんの現場見学、またボランティアの方々にきていただき、認知症に関する理解や支援をいただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	複数の方々が同時に集まる希少な時間なので、日常の報告から、運営に役立つ意見交換も行っています。	家族、町内会会長、地域住民、元民生委員、地域包括支援センター職員などが参加して年6回行い、運営状況、行事、事故報告などをして、参加者から意見や助言、アドバイスを得て、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市の担当者と日頃から連絡を密に取り、疑問に思う点をすぐ質問するなど協力関係を築いている。	市担当者に提出書類を持参した時などに事業所の取り組みを伝えたり、アドバイスを受けている。地域包括支援センターとも連絡を密にして連携、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合の条件の把握と、そこに至らないための話し合いや、ケースごとの対処法について話し合い、日常に活かしている。	毎月のスタッフ会議で身体拘束防止について話し合い、全職員は理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師等を招き理解や知識を深めたり、虐待について毎月会議を行い全職員で周知徹底をし、日々防止につとめている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の社内講習を行い社員全員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がご家族や利用者本人の不安や疑問を尋ね、十分な説明をおこない、納得・理解をいただいた上で契約等をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議を行い、意見や要望など情報を開示し、運営に反映させています	面会時での会話のなかや、電話の時に意見、要望を聞いたり、運営推進会議での意見、要望を職員に周知して運営に反映させている。意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に行っている。	職員は疑問等が生じた場合は、その都度管理者に相談して早めに解決している。毎日のミーティング時や毎月のスタッフ会議で職員の意見、提案を聞き、内部研修や自主勉強会を記録帳に残し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数と所持している資格によって、個別の給与水準を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に参加してもらっている。管理者が日常的に観察し、ケアのバラつきが少なくなるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて、スタッフは交流していると思います。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず行っています。本人だけでなく、家族や関係者から、分かる範囲で詳細を聞き、関係作りと、ケアに役立てています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、出来るだけの情報を貰った上で皆さんの不安が薄らぐように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホーム内で出来る限り要望に沿えるよう工夫し、その内容を話しあった上で、サービスを開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事や、今出来る事を話し合い行ってもらうことで、一方的な関係にならないように努力しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	幸い、家族の訪問も多いので、都度要望等を聞き本人を中心としたケアを家族の方々と共に行っていると思います。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が通っていた病院やスーパー、床屋などを継続するようにしています。	馴染みの理容室に家族や職員と一緒にいる。家族の訪問があり、お盆のお墓参りをしたり、年末、年始に家族の家に泊まったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が仲良く出来るように、スタッフは常にサポートを行っています。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	汲み取れるように、スタッフは分かりやすい話し方で接し、把握に努めています。又本人本位になるようにプランその他の作成にも取り組んでいます。	日常の会話の中や接遇時に把握したり、介護記録帳から把握して本人の希望に沿うように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりを観察し、状態変化の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、本人・ご家族の意向を確認し、日々の介護記録やアセスメントをもとに現状に沿った介護計画を作成しています。	本人、家族の意向を聞き、介護記録、アセスメントを確認して、担当職員、管理者とアイデアを出し合い、3ヶ月毎に見直し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1ヶ月分の観察記録を元に、毎月会議でスタッフ同士による検討等を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあれば、柔軟に対応するように心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にあるお店や医療機関を積極的に利用し、昔からのなじみを持った方々にも抵抗なく利用出来るように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人とご家族の希望を取り入れながら適切な医療を受けられるよう支援しています。	それぞれのかかりつけ医が定期的に往診している。専門医の受診は職員が通院介助をしている。	

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師でもあるため、定期的に健康状態の観察を行い、注視しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等は、密接に医療機関と連携し、本人の状態の把握と、退院時の今後の生活の変化について話し合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と十分に話し合い、要望や意向を伺っています。	終末期のケアについて事業所で出来る事、方針、指針を本人、家族に説明し、エンドステージの文章を明記し、本人、家族と話し合い確認印を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを完備し、全職員に周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的にご家族や地域の方にも参加いただき避難訓練を行っています。	年2回消防署員の指導の下、利用者、家族、地域住民が参加して火災避難訓練を行っている。夜間想定としての避難誘導や、AEDの講習を受けて職員が身につけている。防災グッズ、備蓄品を常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフで行っています。	一人ひとりの尊厳を守り、日常の言葉かけも丁寧に対応している。全職員は知り得た利用者、家族の情報は秘密保持を守って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフからの声かけを頻繁に行う事で、入居者の要望や意見を発しやすい状態にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まった食事等を除いて、本人の希望を伺った上で、決定するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装が出来るように支援しています。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや茶碗拭きを手伝ってもらったり、時には希望された出前をとってみたいと食事を楽しんでもらっています。	食事の支度や食後の後片付け、テーブル拭きができる人は、楽しみながら職員と一緒に毎日手伝っている。きざみ食の人にも楽しみを得るように工夫をしている。行事食や出前、外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日観察し、バランスの取れた食事に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には全員歯磨きを行っています。出来ない方にはスタッフがスワブ等を使用して、清掃しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っています。部分的に支援し、自立した排泄が行えるように支援しています。	日中はトイレでの排泄をするように、オムツをはずして各人の排泄パターンを把握し、誘導支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関からの処方薬も使用しながら、状態に合わせた使用に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっていますが、本人の要望により、入浴しない場合等は、室内にて身体の清拭を行う等で、補っています。	週に2～3回の入浴をしている。ゆったりと楽しみながら、職員との何気ない入浴中の会話の中で、利用者の日頃の思いや要望も聞き出すことも有り、コミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整等により、管理しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員で、二重にチェックを行い、ミスにならないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には、積極的に支援しています。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームでの行事の時や、それ以外での個人の用事や買い物での外出は積極的に行い、支援しています。又家族同伴の外出も支援しています。	近隣のスーパーへ買い物へ行ったり、ドライブで花見、紅葉を見たり、近くの公園での花火大会を見学したり、スーパーの駐車場で夏祭りに出かけて食事を楽しんだり、外出支援をしている。家族の協力で年末に家に帰り、ひと時を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、自身で買い物時の支払を行ってもらい、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し、トイレは1日2回清掃、食堂は毎食後清潔にしています。生活環境には常に気を配り、不快のないように心がけています。また、季節のイベントには飾り付けをしたりなど工夫しています。	居間、食堂は吹き抜けで天窓からやさしい日差しが入り、ゆったりとしたソファで寛げる共用空間となっている。季節の飾り付けをして(今はクリスマスツリーリース、モール飾り)トイレ、洗面所、浴室の生活環境は常に清潔にしている。廊下に腰掛け椅子を置いて、いつでも廊下での歩行をしながら運動機能を補えるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	構造上、完全に一人になれるのは居室しかありませんが、共有スペースでは入居者同士が会話しやすいようにソファの配置等をしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用したものを置いたりなど、危険や障害物がないように配慮しつつ、本人が居心地よく過ごせるようにしています。	居室は表札に個々の飾りをつけたり、本人の介助の仕方をどの職員でも分かるように一言を入りに書いてある。本人の使い慣れた物を置き、自作の習字や家族からのプレゼントを置き、自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活と介護の側面からみた、支援のしやすさを考慮しています。		